

# 全国準優勝

# 歴史を刻む

「当初の目標は全国総体出場。その目標を大きく越えられたことが嬉しかった」と話す重信中学校男子ソフトボール部ゲームキャプテンの高塚裕太さん。

重信中学校は愛媛県総体で13連覇、22度目の優勝を果たし、迎えた四国総体。1回戦は四国の強豪、高知県大正中学校に5対1で勝利した。準決勝は鳴門教育大学附属中学校と対戦。4回裏まで取っては返す攻防が続いたが、最後は1点を奪えず7対8でベスト4の成績を収めた。

四国大会ベスト4が出場できる全国大会。北海道で行われた全国の舞台の初戦は大阪府の英田中学校と対戦し7対5で勝利して勢い

に乗った重信中学校は準決勝、決勝と駒を進め、見事全国2位の栄光を手にした。

「四国大会の負けは彼らにとっていいきっかけになった。初めて悔しいと感じたと思います。そこから練習にも力が入った」と話す重信中学校男子ソフトボール部橋本清監督。「特に印象に残ったのは準決勝の仁淀・池川・尾川戦。四国大会で優勝したチームとの一戦。始めに2点を先取してそのまま完封で試合を終えた。歯が立たないと思った相手に完封できたことでチームに勢いがついた」

決勝戦の相手は練習試合で0対8でコールド負けをした広島県の御調中学校。7回裏1

点を取り返したが、最後は相手の守りを崩すことができず、3対4で惜敗した。「コールド負けにならないようにと思っていたが最後まで試合の結果が分らない、いい試合ができた。どの試合も印象に残っている」と話す。

「昨年度の目標は全国ベスト4。今年は自分たちの実力から全国出場の目標が、全国2位となった。全国へ行った3年生の姿は続く後輩たちにとって励みになった。チームにとっていい経験になった」と笑顔を見せた。男子ソフトボール部キャプテンの上田琉晴さんは「周りの予想を覆す準優勝を飾れたのはチーム全員が全力を出せたおかげ」と話す。

9月初旬、既に新

| 大会   | 対戦校              | 試合結果 | 大会   | 対戦校              | 試合結果 |
|------|------------------|------|------|------------------|------|
| 全国大会 | 一回戦 英田（大阪）       | 7-5  | 県大会  | 決勝 愛光（松山）        | 3-2  |
|      | 準決勝 仁淀・池川・尾川（高知） | 2-0  | 四国大会 | 一回戦 大正（高知）       | 5-1  |
|      | 決勝 御調（広島）        | 3-4  |      | 準決勝 鳴門教育大学附属（高知） | 7-8  |



# 兄妹で挑む 全国の舞台 ピアノの軌跡

二神弘樹<sup>ひろき</sup>さんと結奈<sup>ゆいな</sup>さん（播磨台団地）の兄妹は参加者延べ約45,000組、世界でも最大規模のピアノコンクール「ビティナ・ピアノコンペティション」の全国大会で入賞した。兄の弘樹さんは本選D級1位、全国D級でベスト26を受賞。結奈さんは全国A1級で銀賞、全国連弾A級で銅賞を獲得した。

さと表情の豊かさ。怖じけず堂々と弾く姿は小学生であることを忘れさせる。夏休み中は毎日ピアノに触れた。「うまくできないところは繰り返し練習しました」と話す結奈さん。「全国大会はとても楽しかった。これからも頑張りたい」と話す結奈さんは笑顔で溢れていた。

す。小学校から中学校へと環境が変わり、ピアノに捻出できる時間はわずか。「昨年よりもハードな日程で、正直十分な練習はできなかった。それでも毎日ピアノに触れるようにした」。弘樹さんのタッチは繊細で、アップテンポの楽曲での両手の軽やかな動きは観客を魅了する。「本選で1位を獲得することができたので、これからは連弾にチャレンジしていきたいと思っている。連弾はソロとはまた違った難しさ

があるので、来年は連弾で全国入賞をねらえるように努力していきたい」と目標を語った。

目が合うと喧嘩が始まる普段は子どもらしい2人が、鍵盤に手を置くと表情が一変し、周囲の雰囲気ガラリと変える。今後の二神兄妹の活躍に注目だ。



# 憧れの先生を全国へ 悔しさをバネに 挑む全国への道

聖カタリナ学園高等学校の弓道部3年生の古田知望<sup>ともみ</sup>さん（樋口）は、夏の高校総体で弓道女子団体全国ベスト4になり同校弓道部の新たな歴史を刻んだ。古田さんの弓道

人生は高校1年生から始まった。「弓道部の顧問の先生は授業で知っていたので部活をやってみようかなと思って入部した」。弓道は28m先の36cmの的に向かって矢を放つ。初心者は弓を射ることすら難しいと言われる。繊細なスポーツに魅了された古田さんは練習を重ね確実に上達した。「弓道は自分との戦い。成功したら自分のおかげ。失敗しても自分のせい。全て自分なんです。そこが難しくて面白い」と話す。

古田さんの弓道人生が大きく変わった今年3月の選手権大会、「四国大会まで出場できたが、全国大会のメンバーには選ばれなかった。チームで全国優勝を果たしたときの気持ちは忘れられません」。団体戦に参加で

「全国でベスト4を獲得したけれど、先生を1位にできなかったことが悔しい」と古田さんは悔しさを滲ませた。今後について、可能な限り弓道が続けたいと展望を語る。「弓道全国優勝」を目指しこれからも奮闘する。

古田さんの弓道人生が大きく変わった今年3月の選手権大会、「四国大会まで出場できたが、全国大会のメンバーには選ばれなかった。チームで全国優勝を果たしたときの気持ちは忘れられません」。団体戦に参加で

